

目次

ふくし
福祉の分野で活動する
ボランティアを
しょうかい
紹介するよ。



はじめに 西尾雄志	4
-----------	---

福祉ボランティアおすすめチャート	6
------------------	---

第1章 子どもや若者をささえる

子ども食堂ボランティア

西成チャイルド・ケア・センター	10
地域の子どもとその親を、あたたかいごはんでもかえる	

LGBTQ 支援ボランティア

ReBit	14
すべての子どもが、ありのままでおとなになれる社会をつくる	

冒険遊び場・居場所運営ボランティア

ゆめ・まち・ねっと	18
遊びを通して出会った子どもとつながりつづける	

第2章 障がい者をささえる

在宅介護・地域生活支援ボランティア

寝屋川市民たすけあいの会	24
身近な「たすけあい」をネットワークに広げる	

パラスポーツ支援ボランティア

D-SHiPS32	28
心わきたつ体験を障がいのある子どもにも	

第3章 高齢者をささえる

居場所運営ボランティア

いこいの家 夢みん	34
年をとっても住みやすい地域を住民の手でつくる	

ICT 学習・支援ボランティア

コミュニティ NET ひたち	38
ICT スキルを学びあい、知識と技術を地域に生かす	

解説 福祉とボランティア

さくいん	47
------	----

ボランティアとSDGs

2015年9月25日の国連サミットで、地球環境を保全しながら発展をつづけるための目標「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。SDGsは、2016年から2030年の15年間で国連加盟国が達成すべき17の目標(ゴール)と169のターゲット(ゴールにいたるための具体的な課題)で構成されています。17の目標は、国だけでなく企業や市民が参加し、社会全体で達成をめざすものとされています。本書では、ボランティアの活動をSDGsの観点からとらえ、SDGsのどの目標にかかわるかを右のアイコンでしめています。



団体名の表示について

この本で活動を取りあげている団体には、NPO法人および認定NPO法人がふくまれます。NPO法人は、NPO法人(特定非営利活動法人)制度にもとづき、団体の名前で契約や取引ができる法人格を得た団体です。認定NPO法人は、NPO法人のなかでも、その団体に寄付した人が税の優遇を受けられる団体です。

NPO法人は特定非営利活動法人ともよばれますが、この本ではNPO法人と記します。また、各団体の種類は「団体データ」内の「団体名称」にします。

地域の子どもとその親を、あたたかいごはんでもかえる

にしなり
西成チャイルド・ケア・センター

子どもが1人でも、無料もしくは数百円で食事ができる場所が子ども食堂です。地域で居場所づくりをしたいと考える人たちが、2012年ごろからこの活動をはじめ、いまでは全国に広がっています。そのさきがけの一つとなったのが、西成チャイルド・ケア・センターが運営する「にしなり☆こども食堂」です。

子ども食堂は地域の人が結びつけるんだね。



多くの課題をかかえる西成区で

大阪市西成区は、大都市である大阪市の南部で、難波や天王寺・阿倍野などの繁華街にはさまれた区です。北東部には日やといではたらく労働者向けの簡易宿泊所が集まる「あいりん地区」をかかえ、生活や貧困の問題に古くから直面している地域です。

西成チャイルド・ケア・センターは、西成区で「にしなり☆こども食堂」を中心に子ども、保護者を支援する団体です。代表理事の川辺康子さんは、西成区で生まれそだち、子どものころは貧困をはじめとする地域の問題を意識する機会はほとんどありませんでした。

2001年、「わが町にしなり子育てネット」ではたらく子育て支援員になったことから、現在までつづく地域福祉の活動をはじめます。しかし、道のりはけわしいものでした。行政からの補助金が打ちきられて、仕事を無償でつづけることになったり、はたらいていた施設が廃止されてしまったり。そのたびに

「お金では買えない仕事をしているんだから、やりたいことをやればいい」という家族のこたばをささえに、次の活動の場をさがしてきました。

子どもにはおなかいっぱいになれる場所が必要

川辺さんが子どもと食事の問題にはじめてふれたのは2003年、児童館ではたらいいたときです。毎日遊びにくる子どもの1人が、いつも水飲み場で水をがぶがぶ飲んでいたので。空腹をまぎらわせるためでした。気をつけて様子を見てみると、じゅうぶんに食事ができていない子どもの存在がだんだん見えてきました。

その後の2010年、地域のひとと学校の先生とがつくる連絡会に参加することになった川辺さんは、地域にある小学校で学級崩壊が連鎖して起こり、学校全体が荒れてしまっていることを知りました。事態を受けて、当時つとめていた施設に子どもの居場所「あそびの広場」を開きます。

遊びにきても気持ち荒れていて、けんかをふっかけたりあばれたりする子どもがいます。「これはおなかやすいてるんちゃうかな」と感じた川辺さんは、子どもたちといっしょに食事をつくって食べる料理教室をはじめました。これが大当たりでした。楽しく食事をした子どもたちは、見る見るうちに落ちつきをとりもどしたのです。2012年には「にしなり☆こども食堂」と名前を改め、食堂形式としました。いま全国に広がっている子ども食堂のとりくみは、当時まだはじまったばかりでした。

開始当時は、施設での仕事を終えてから、無償のボランティアとしての活動でした。場所や光熱費は施設の運営のなかでまかなうことができましたが、食材や調味料などはすべて川辺さんの負担です。さいわい施設職員としての給料があったり、施設を通して助成金を得たりして、なんとか運営ができていまし

代表理事 川辺康子さんに聞きました



子どもたちやお母さんたちにたくさんのかを教わりながら活動してきました。人とつながるのが好きなので、そこがこの活動に向いているところかなと自分では思っています。いまの目標は、食堂と、親子が育ちなおしをするための宿泊所の機能をもった、みんながゆっくりできる新しい場所をつくることですね。



開設当時の「にしなり☆こども食堂」。



団体データ

団体名称	NPO法人 西成チャイルド・ケア・センター
設立	2017年（同時にNPO法人化）
所在地	大阪府大阪市西成区中開3-3 ひらき住宅1-102
電話	06-7709-5432
ファクス	06-7709-5432
ホームページ	https://n-ccc.org/



ボランティアの声

おか ゆりこ
岡 由利子さん



中学生のときから、食事をじゅうぶんとれない子どもがいましたが、それに自分が何もできないことにいかりを感じていました。新聞記事で「にしなり☆こども食堂」を知り、高校受験が終わったところからボランティアとして活動に参加しています。わたしも家族以外の多くの人にささえられて育ちました。その経験に後おしされながら、子どもたちとかわっています。

を組みあわせます。

午後3時ごろから調理をはじめます。調理担当のボランティアが来てくれることも、川辺さん1人のこともあります。3時半ごろになると、学校帰り子どもたちがやってきます。家に帰ってきたようにランドセルを置いて遊びにいたり、宿題をしたり、すごしかたはさまざまです。

大学生のボランティアが集まって調理することもあります。



「にしなり☆こども食堂」の夏休みのある日の食卓。毎回40人分の料理が並びます。

た。しかし、この施設も2016年3月に廃止されてしまいます。川辺さんは、活動場所をうつしてとりくみをつづけながら「こども食堂ネットワーク関西」をつくり、ふえはじめた関西各地の子ども食堂をつなぐ活動にたずさわります。そして2017年、西成区の北西部にある団地の1階に「にしなり☆こども食堂」を移転し、NPO法人西成チャイルド・ケア・センターとして活動をはじめました。

現在「にしなり☆こども食堂」は、毎週月曜・火曜に開かれています。午前中のうちにその日使う米をあらひ、冷蔵庫や食料庫を見て献立を決めます。いたまないうちに使いたい野菜、それに合う肉や魚、賞味期限が近い食品

中学生たちは無料で使えるWi-Fiをめあてに集まってきて、ゲームに熱中していたりもします。

5時半に「いただきます」で食べはじめますが、部活動を終えた高校生が6時半をすぎて顔を出すこともあり、にぎやかな時間は午後7時ごろまでつづきます。

つながりの力で親子をささえる

「にしなり☆こども食堂」がある地域には、市営住宅がたくさん建てられ、一人ぐらしの高齢者や、女性とその子どもだけの母子家庭、外国にルーツをもつ人びとが多くくらしています。人の出入りも多く、近所づきあいなどの地域のつながりがなかなかできません。

川辺さんはこれまでの活動を通して、地域で孤立してしまう親子を数多く見てきました。子育て支援や、親子のための一時宿泊所の運営も、食堂の運営と並行して行っています。

川辺さんが「目からうろこが落ちた」と語る体験があります。川辺さんが長く生活の支援をしてきたある子育て中の女性が「わたしはもう一人じゃないんやな」とつぶやいたことがありました。そのきっかけは、「にしなり☆こども食堂」で顔見知りになった子どもが、町で声をかけてきたことだったそうです。子どもが気軽に話しかけた一言が、子ども自身も知らないうちに、この女性の気持ちをささえていました。川辺さんはとてもおどろき、地域で人ととがかわることの大きな意味をあらためて感じたのです。

ささやかなたくさんのつながりが、西成チャイルド・ケア・センターの活動から生まれています。



ボランティアの声

いのうえしょう たろう
井上翔太郎さん



「にしなり☆こども食堂」に月に2回ほど通って、調理の手伝いをしたり、子どもの相手をしたりしています。相手の希望を受けとめるだけでなく、自分

で考えて動いて、それが相手のためになるようなボランティアでありたいです。代表の川辺さんが、つねに子どものことを考え、子どもと対等の目線でけんかしたり喜んだりしている様子を見てみると、こういうおとながいてくれたら子どもはうれしいだろうと思いますね。



「にしなり☆こども食堂」には、つながりのある人や会社から、毎日さまざまな支援品がとどきます。